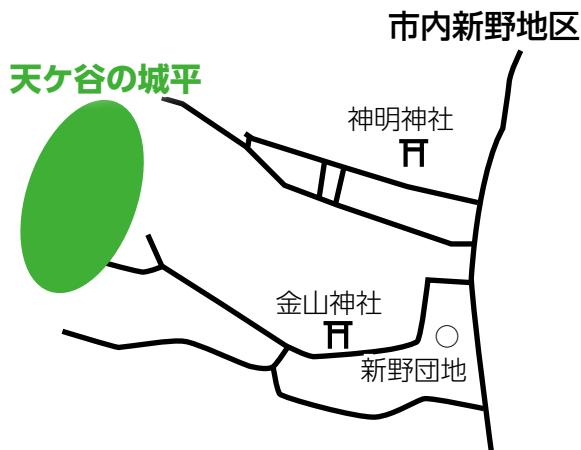




▲天ヶ谷の城平の現状



埋蔵文化財包蔵地
天ヶ谷の城平

History

キラリを再発見

菊川市高橋との 境に立地する城跡

あまがや しろひら
天ヶ谷の城平は新野字中西に位置し、天ヶ谷集落に張り出した標高65m程の丘陵上の「城平」と呼ばれる所に城跡があることから、その名が付けられました。城跡全体の遺構は南北約200m、東西約170mの範囲に配置され、南北2つの曲輪くるわが認められます。北側には、土塁を巡らした曲輪とこれを守るための横掘や堀切などがあり、南側は三方を掘切で守る形になっています。

天ヶ谷の城平は、この地の在地領主として高橋さこんのしょうけん左近将監という人が古文書に書かれていることから、高橋城とも呼ばれています。ただし、現在遺構として見えるのは、戦国時代の武田式築城法によるものと考えられることから、始めに高橋氏が築いて居城とした城を、後に高天神城(掛川市)と小川城(吉田町)・滝塚城(牧之原市)とを結ぶつなぎの城として、武田氏が手を入れたものと推定されます。天ヶ谷の城平には、武田式築城法の特徴である二重堀と横掘が残存しています。

照会 社会教育課 ☎0548③1129

Atomic

暮らしと原子力

フィルタベント設備、
ガスタービン発電機の
搬入・据付について

浜岡原子力発電所では、3月24日から27日にかけて、フィルタベント設備(※1)が陸上輸送で御前崎港から発電所構内へ運ばれました。本設備は安全性向上対策工事を行っている4号機に据え付けるもので、現在は、掘削工事が完了したフィルタベント室への据え付け工事を進めています。

また、ガスタービン発電機(※2)建屋の耐震強化工事が完了したため、4月3日まで発電機を搬入し、現在は据え付け工事を行っています。

浜岡原子力発電所では、平成28年9月頃の工事完了を目指し、今後も発電所の安全性をより一層向上させる取り組みを着実に進めていくとのことです。

※1：万一炉心損傷が発生し、格納容器が過圧される状況になった場合にも、格納容器内の気体をフィルタ

を通じて放出することにより、容器を減圧して破損を防止するとともに、大気に放出される粒子状の放射性物質(セシウムなど)を低減し、長期の土壌汚染を防止するための設備です。

※2：冷却設備などの電源を確保するため、ガスタービン発電機6台を海拔40mの高台に設置します。ガスタービン発電機の合計出力は1万9200キロワットで、これは中規模水力発電所の出力に相当します。



▲フィルタベント設備を輸送する様子